

研究課題	新潟県内における周産期女性のメンタルヘルスに影響を与える因子についての実態調査および検討
支援番号	GC03120203
研究事業期間	令和2年4月1日から令和5年3月31日
助成金総額	1,250,000
研究代表者 (所属機関)	小川 真貴 (新潟大学 精神医学)
研究分担者 (所属機関)	茂木 崇治 (新潟大学医歯学総合病院 精神科)、橋尻 洸陽 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 精神医学分野)、福井 直樹 (新潟大学医学部医学科 医学部教育センター)、渡部 雄一郎 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 精神医学分野)、染矢 俊幸 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 精神医学分野)
研究キーワード	周産期メンタルヘルス、産後うつ、ボンディング、アタッチメント、発達特性
研究実績 の概要	<p>本研究は周産期に出現する抑うつ・不安および愛着形成に関連する妊産婦の精神医学および産科学的因子に関するデータを収集し、それぞれの因果関係を同定することにこれにより周産期のメンタルヘルスに影響を与える因子を明らかにし、母児のメンタルヘルス向上対策の一助とすることを目的として行った。</p> <p>【研究方法】以下の5つに関して相互の関連を明らかにした。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 妊産婦自身の被養育体験 ② 妊産婦の周産期における不安・抑うつ ③ 妊産婦自身の発達特性 ④ 子との間の情緒的結びつき (アタッチメント、ボンディング) ⑤ 妊産婦のパートナーとの関係性 <p>【本研究で明らかになったこと】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 母親の不安と抑うつが強いほどボンディングが不良になる。 ② 経産婦と比較し、初産婦の方がボンディングが悪い傾向にある。 ③ 完全母乳栄養かどうかは、産後の不安、抑うつ、ボンディングに影響を与えない。 ④ 母親の不安が強いと完全母乳栄養にはなりにくい。 ⑤ 母親自身が青年期以前に、両親からケアの高く過干渉少ない養育を受けると、周産期のメンタルヘルスが良好な傾向にある。 ⑥ 母親自身が青年期以前に、両親からケアの高く過干渉少ない養育を受けると、パートナーとの関係が良好な傾向にある。 ⑦ 母親の自閉的特徴は産後の不安やうつを引き起こしやすく、子とのボンディングに影響を与える。 <p>【研究意義】これまで妊産婦自身の発達特性と不安・抑うつまたは子への情緒的な結びつきとの関連を調べた研究はほとんどない。妊産婦の発達特性に着目することで、愛着形成の失敗や不安・抑うつの出現の予測および予防、早期発見に繋がることが期待される。</p> <p>【本研究の重要性】本研究には、新潟県の産科医療機関を対象に周産期に出現する抑うつ・不安および愛着形成に関連する妊産婦側の精神医学的因子に関するデータを大規模に収集し、それぞれの因果関係を同定することで、新潟県の現状に沿った周産期におけるメンタルヘルスケアを充実させることができる。</p>

	<p>【新潟市医師会への提言】新潟市の妊婦検診の際に身体的側面だけではなく、妊産婦の発達特性という精神医学的側面からの検討をも加えることで、愛着形成の失敗や不安・抑うつ の出現の予測および予防、早期発見に繋がることを期待される。</p>
--	--